

第3回 富山県庁周辺エリアマネジメント懇話会 議事概要

日時：令和7年3月24日（月）16：00～17：00

場所：富山県民会館 4階 401会議室

出席者（五十音順）：齋藤学長、品川副会頭、難波教授、
新田知事、藤井市長、牧田代表幹事

- ・懇話会の主旨は県と市をどのように有機的に融合させてエリアをマネジメントしていくかという点が重要であった。これを機に県と市で価値観や課題を共有できればよい。今後、県では基本構想、市では次期都市マスタープランを取りまとめるが、そのベースとなる考え方を懇話会で作り上げたい。
- ・今回で懇話会は最終回となる想定であるが、エリアコンセプトが脈々と県および市に受け継がれ、エリアの活性化につながることを期待したい。
- ・エリアコンセプトブックと提言はかなりクロスしている。提言の「暮らし・憩い・楽しみ・学び」について、人流を生むという部分で共通している。こどもから高齢者まで、富山を好きになってもらう考え方も重要である。
- ・学生の観点について、欧州のまちでは学生どうしだけでなく学生が市民や企業と交流できる場所がある。富山のまちなかにもそのような拠点を作ること重要である。富山大学の学生の75%が県外出身者である。その方々に富山を好きになってもらわないと、卒業後に富山に残ってもらえない。
- ・欧州の観光地では、まちなかは車が通行禁止になっていて、トラムが通っている。まちなかの環境がクリーンで、多様な店舗が道端に連なっている。また、自転車の専用道路が多い。富山地方鉄道やあいの風とやま鉄道の働き掛けも求められる。駅周辺においても平面であれば自転車でスムーズに移動できる。
- ・提言は素晴らしい内容である。エリアコンセプトブックについてもアイデアコンペの開催やエリアコンセプトの設定について今後の指針となる分かり易い整理がされている。これから先のビジョンが明確になったのではないか。
- ・アイデアコンペの提案作品では置県150年において実現されるとよいアイデアが多かった。
- ・商工会議所として、具体事業で協力させてほしい。来年度の8月、旧NHK跡地においてオクトーバーフェストの開催を予定している。また、富山まつりでの出店やイベント企画など、集客・賑わいに繋がる活動を実施・支援する。また、トヤマチミライと連携するなど、五月雨式に様々なイベントを仕掛けたい。
- ・先般、富山市がNYタイムズ「2025年に行くべき52か所」に選定された。ま

ちなかの賑わいづくりについては県民だけでなく観光客もターゲットとして、波状的に展開されるとよい。

- ・ 欧州の歴史的なまちには必ず広場があり、緑や市民が憩える場所がある。また、来街者の興味を引く映えるスポットがある。ぜひ県庁舎本館を博物館にする等、観光客にも自慢できるようなシンボルとなる施設、象徴的な広場を生み出せばよい。
- ・ まちなかスタジアム構想のように、エンターテインメントの要素も含めて、他のエリアとつながったまちづくりが展開されてほしい。
- ・ エリアコンセプトブックと提言書について、それぞれ分かり易くまとめた内容であった。
- ・ 提言について、もともと想定していなかったが結果としてこの廃川地のエリアが見えてきたということで、まさにここがまちづくりにおいて重要であることが改めて明らかとなったのではないか。
- ・ 行政街はどうしても人を寄せ付けず、夜の稼働が少ない。改めて2つの資料を見てその課題を感じた。
- ・ アイデアコンペでは様々な属性の方々から多くの応募をいただいた。当エリアへの関心の高さを表している。県と市、産業界も含めて話し合う場が必要である。
- ・ 人口減少、特に若年層や女性の流出が激しい中では、若者が小さく何かを実験的に始める、そこで産学官民の方々と知り合い新たにビジネスが生まれるなどの動きが当エリアから出てくるのが望ましい。
- ・ 当エリアの魅力の一つは水辺であり、さらに旧河道の水辺を生かしてまちづくりが展開されればよい。
- ・ イラストについて建物を追加したという指摘があったが、ハードに頼らず、ソフトで動きを生むことで結果として新たな建物の配置や空きビルへの入居が進むなどの展開を意識するとよい。
- ・ 夜の弱さが課題であるため、何か具体的な施策を検討できればよい。
- ・ 市としても中心市街地の賑わいをどう生んでいくか考えていた中で、提言の中の廃川地の課題はまさに県庁周辺エリアが該当する。提言とエリアコンセプトブックの内容はシンクロしている。
- ・ 富山市では20年後のまちのあるべき姿を見据えた次期都市マスタープランの作成中である。その一つとして中心市街地エリアや県庁周辺エリアが課題となっている。コンパクトシティにおける串と団子の政策において、団子（バス停や駅の周辺）への人口流入が進んできたが、近年では団子のエリアにおいても空き家や空き地、新たなビルの床が埋まらないなどの現象が起きている。どのようにリノベーションして活用していくかが課題であると改めて感じた。

- ・ 県庁周辺エリアは水辺や緑など中心市街地としての魅力、優位性がある。うまく活用できればよい。
 - ・ キーになるのは若い方々がどのように活動し、経済界と交流できるか。大学生だけでなく高校生も含めて、このエリアを中心に展開できればよい。
 - ・ 行政としては、庁舎前の広場や施設内の共有スペースなどをいかに開いてまちと一体感を示していくかが重要である。
-
- ・ 経済同友会の声掛けで懇話会が立ち上がり、県との合作でわかりやすいエリアコンセプトブックがまとめられた。同じタイミングで方向性を一つにするような経済同友会からの提言をいただいた。様々な提案のコンテンツや要素が盛り込まれている。うまく収斂させていくことが今後の課題である。
 - ・ 昨日は富山駅周辺、グランドプラザ、大手モール、それぞれでイベントがあり非常に盛り上がっていた。これからも富山駅周辺や商店街地区は活気が出てくるし、桜木町再開発の計画もある。県庁周辺エリアも富山駅周辺と商店街地区をつなぐエリアとして機能できればよい。
-
- ・ 本日は欧州の意見が多く見られた。富山県の地域交通戦略を昨年度作成したが、欧州の SUMP（サステナブルアーバンマネジメントプラン）の考え方を参考に作っている。必ず県庁周辺エリアのエリアコンセプトとマッチしてくると考える。
 - ・ 改めてポテンシャルが高いエリアと認識した。ポテンシャルのままに終わらせてはいけない。富山市との官官連携を進めていきたい。提言におけるエリアマネジメント組織について、富山市も含めて構築していきたい。
-
- ・ 一方で、富山市ばかりではなく、他 14 市町村も含めて、県下全域に波及させていくことが重要である。鉄軌道が全市町村に通っている富山の良さを活かして、ネットワークをつないでいきたい。
 - ・ 当面は NHK 跡地の暫定活用を進めて行く、それと並行して令和 7 年度に一年かけて基本構想をしっかりと固めていきたい。
-
- ・ エリアコンセプトブックを懇話会の成果物として納めることで、懇話会は一定の役割を終えた。皆さまには力添えをいただき感謝申し上げます。